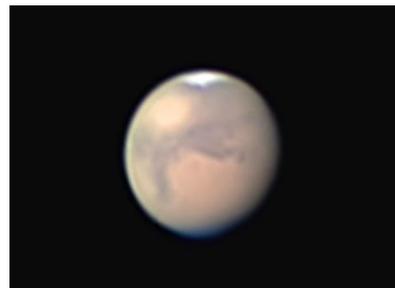


「肉眼で見る最後の火星」

桑田 直宏

火星が準大接近しています。前回の 2018 年大接近は、8 月の接近時に大規模な砂嵐が発生して、表面の様子がほとんど見えない「のっぺらぼうの火星」になってしまいました。今年は準大接近となりますが、2 年前の大接近より高度は高くなり、その分シーイングの影響も少なく模様がよく見えます。私にとっては、肉眼で見る最後の火星と思っています。



過去の火星大接近

最接近日	最近距離	最大視直径	私が使用した望遠鏡と感想
1971 年 8 月	5620 万 km	24.91 秒角	高橋製作所5cm屈折望遠鏡で1973年に初めて火星を見た。使える倍率が最大80倍だったこともあって小さな赤い点にしかならずにがっかりしたことを覚えている。
1988 年 9 月	5881 万 km	23.81 秒角	タカハシ20cmイプシロン望遠鏡に倍率200倍で観望。系外星雲の写真に熱中していたが、たまたま火星に向けたところ、こんなにも模様が見えるのかとびっくりした。目も良かった
2003 年 8 月	5576 万 km	25.11 秒角	ミード30cmシュミカセ望遠鏡に300倍で観望。ほとんど毎日ベランダに30cmを出して観望したが、思ったほど見えなかった。シュミカセの像の甘さと大口径の難しさを知る。
2018 年 7 月	5759 万 km	24.31 秒角	惑星の観望にもはまり、森の宇宙船でミード 40 cmとタカハシ 12 cm屈折、自宅では 18 cmマク・ニュートンで観望。史上最大規模の砂嵐発生であり見えず。

今回使用した望遠鏡の感想

	使用望遠鏡	感想
1	テレビュー7.6 cm屈折	ベランダに出してすぐにでもよく見える。倍率 150 倍程度では火星は小さな米粒のよう。意外に大きな模様はコントラストよく見える。火星の模様が見えたという程度。
2	タカハシ 12 cm屈折	この口径になると、しばらく外気になじませないと性能を発揮できない。7.6 cmより模様がさらによく見えるが、火星にはまだまだ口径不足の感は否めない。
3	Alter-7N 18 cmマク・ニュートン	惑星を眼視で見るために特化した望遠鏡。この口径から火星の様子がよく見えると感じられるが、火星にはもっと大きな口径が欲しいと思う。しかし、この望遠鏡で見る火星が一番きれいだと感じるのは、色収差がなくてシーイング対策がされている鏡筒が原因かも。
4	ミード 40 cmシュミカセ	40 cmになるとシーイングとともに筒内気流が火星像に大きく影響する。そんな夜はピントの山がわからず、ぐにやぐにやの火星になる。ところが気流のいい日に出会うと、違う望遠鏡になったのかと思うくらいによく見える。火星の雲の形やさらに小さな模様や色が分かる。経験的にそんな夜は年に数日しか訪れない。